

令和5年度 社会科

教科	社会科	科目	地理総合	単位数	2	年次／コース	高2年生／特進文系
使用教科書	東京書籍『地理総合』 東京書籍『新高等地図』						
副教材など	啓隆社 地理総合演習ノート						

1. 学習の到達目標

<p>●科目について</p> <p>① 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。</p> <p>② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養います。</p> <p>③ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めます。</p> <p>●コンピテンシーについて</p> <p>上記の目標を達成することが、本校の学校コンピテンシーである「探究力」を養うことに繋がると考えております。</p>

2. 学習方法について

<p>●授業中において</p> <p>講義一辺倒ではないので、みなさんも意見を積極的に聞かせてほしいと思っております。頭な中をアクティブにし、一緒に地理の学習を楽しみましょう。</p> <p>●家庭学習において</p> <p>授業の予習、復習はもちろんですが、テレビやネットニュースまた新聞などにも積極的に目や耳を傾けてください。</p>

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	A：知識・技能	B：思考・判断・表現	C：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	・世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	・地球上の位置に関する事柄について、緯度・経度や世界地図・地球儀や領域の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適	・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとして

1	<p>第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界</p> <p>第1章 私たちが暮らす世界</p> <p>1 緯度・経度</p> <p>2 地球儀と世界地図</p> <p>3 日本の位置と領域</p> <p>第2章 地図や地理情報システムの役割</p> <p>4 地図の種類</p> <p>5 地形図のルール</p> <p>6 主題図の種類と読み取り</p> <p>7 地理情報システムと地図</p> <p>8 交通の発達</p> <p>第3章 資料から読み取る現代世界</p> <p>9 情報通信の発達</p> <p>10 国境をこえる人々の移動</p> <p>11 拡大する貿易</p> <p>12 つながる世界，多極化する世界</p> <p>13 文化の地域性と多様性</p> <p>14 宗教と人々の暮らし</p> <p>第2編 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境</p> <p>1節 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>15 山地の暮らし</p> <p>16 平野の暮らし</p> <p>17 海岸の暮らし</p> <p>18 多様な気候とその分布</p>	○	○	○	<p>・緯度・経度の違いが，私たちの生活にどのような影響を与えているのか理解する。(A)</p> <p>・地球儀と世界地図の違いを理解し，用途に応じて適切に利用できるようにする。(A)</p> <p>・日本の位置と領域を理解するとともに，排他的経済水域の重要性を考える。(B)</p> <p>・「3. 学習評価」に示した観点と評価方法によって評価(C)</p> <p>・世界には多様な文化が存在すること，近年それが均一化する傾向にあることを理解する。(A)</p> <p>・地形や気候が地域によってどのように異なるのか，そしてそれらが人々の生活にどのように影響を与えてきたかを考察する。(B)</p>	<p>「3. 学習評価」に示した観点と評価方法によって評価</p>
---	---	---	---	---	--	-----------------------------------

2	2 節 生活文化と自然環境①地形	19 熱帯の人々の暮らし				<p>・技術の発展やグローバル化の進展などにもない、人々の生活文化や産業及びその立地がどのように変化しているか考察する。(B)</p> <p>・「3. 学習評価」に示した観点と評価方法によって評価(C)</p>	
		20 乾燥帯の人々の暮らし	○	○	○		
		21 温帯の人々の暮らし					
		22 亜寒帯・寒帯の人々の暮らし					
		23 食生活と農業の分布					
		24 工場立地の変化					
		25 商業立地と人々の生活	○	○	○		
		26 情報産業の発達と生活文化の変化					
	3 節 生活文化と自然環境②気候	27 地球環境問題(1)					
		28 地球環境問題(2)					
		4 節 生活文化と産業	29 資源・エネルギーの偏在				
			30 化石燃料から再生可能エネルギーへ	○	○		○
	第2章 さまざまな地球的課題と国際協力	31 発展途上国の人口問題					
		32 先進国の人口問題					
		1 節 地球環境問題	33 食料需給をめぐる問題				
			34 発展途上国の居住・都市問題	○	○		○
2 節 資源・エネルギー問題	35 先進国の居住・都市問題						
	36 民族問題・難民問題						
3 節 人口問題	37 地球的課題と国際協力	○	○	○			
	4 節 食料問題						

・地球環境問題の背景と影響を理解し、解決策を考察する。(A) (B)

・さまざまな資源・エネルギーの特徴を理解し、生産や消費のあり方を考える。(A) (B)

3	5 節 居住・都市問題	38 日本の地形の特色	○	○	○	<p>・人口問題および居住・都市問題に関して、発展途上国と先進国とに分けて、問題が発生する背景や特徴を理解し、解決策を考察する。(A) (B)</p> <p>・食料問題の地域的な特徴や問題が生じる背景について理解し、解決策を考察する。(A) (B)</p> <p>・民族問題・難民問題の現状と背景を理解し、改善に向けてどのような取り組みが可能であるか検討する。(B)</p> <p>・地球規模で取り組むべき課題の内容や特徴を確認し、解決や改善に向けた取り組みを考える。(B)</p> <p>・「3. 学習評価」に示した観点と評価方法によって評価 (C)</p>
		39 日本の気候の特色				
		40 地震災害・津波災害(1)	○	○	○	
		41 地震災害・津波災害(2)				
	6 節 民族問題	42 火山の災害とめぐみ				
		43 気象災害(1) 寒さ・暑さと台風	○	○	○	
		44 気象災害(2) 大雨と洪水・土砂災害				
	7 節 持続可能な社会の実現をめざして	45 都市と自然災害				
		46 防災・減災と復旧・復興				
	第3編 持続可能な地域づくりと私たち	47 調査テーマの設定	○	○	○	
		第1章 自然環境と防災				
	1 節 日本の自然環境の特色	48 地域調査1 (資料調査)	○	○	○	
		49 地域調査2 (野外調査)				
		50 まとめと発表	○	○	○	
2 節 さまざまな自然災害と防災						
		○	○	○		

	<p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p>		○	○	○	<p>づくりのあり方について考察する。(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3. 学習評価」に示した観点と評価方法によって評価(C) <p>・地域調査の手順や具体的な手法を理解し、身近な地域において地域調査を実践する。(A)</p> <p>(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3. 学習評価」に示した観点と評価方法によって評価(C) 	
--	-------------------------	--	---	---	---	---	--